

奨励賞



設計担当者

松山将勝

(株)松山建築設計室、福岡県建築士会

診療所／鹿児島県大島郡龍郷町

みんなの診療所

構造 | 鉄骨造

階数 | 地上1階

敷地面積 | 2,022.44㎡

建築面積 | 402.42㎡

延べ面積 | 316.00㎡

竣工 | 令和2年6月30日



1



3



2

1 東側外観。奄美大島の気候風土から生まれた形態

2 道路側からエントランス土間を見る

3 待合室1

4 待合室2。島民の憩いの場として開放されている

5 診察室より山並みを望む

写真…石井紀久



4



5



断面パース



平面図

選評

タクシーで「みんなの診療所」と告げると、ドライバーは「あの診療所には、奄美の島中の人が行ってますよ」と話してくれた。島の人口は4万人強、漸減傾向にあり当然医療環境も過疎化の方向にある。これまで救急医療に携わっていた院長先生は、常々「かかりつけ医」の仕組みの重要性を感じていて島の中で生じる、診療科同士や病院同士で埋めることのできない医療の隙間を減じて、少ない医療資源を有効に利用できる在り方を模索していた。結論

は自分が町医者になり「誰でも何時でも診る」診療所をつくることだった。

奄美出身で島の状況を熟知している設計者は、この考え方に十分応えた。待合のスペースが半分近くを占め、受付のカウンターはない。通常は診療のためだけではなく子どもたち等誰でもやってきて自由に時間を過ごせるような公民館的な場所である。

開放的な内部の空間を大きく包むのが木造の大屋根だ。米松の登梁が美しいリズムを

奏でて、医療の場と、くつろぎの待合空間を一つにまとめる。その大屋根を支える架構は鉄骨造なのだが、柱は基礎のコンクリートの中に深く埋め込まれていて、フィーレンデル状の構造で台風に耐える強度を担っている。

素朴な材料と色で包まれた待合の空間は長居したくなるほどに心地がいい。機能的につくられた診療部分とともに、空間全体が院長先生の名付けた「みんなの診療所」そのものになっていた。(可児才介)